

長いあつが拙稿「名瀬のよう」御掲載いただき、  
ましたことと厚く御礼申上ります。しかれ筆力足ら  
ず毎月正確にお届けできず御迷惑をかけたこと  
ことを申訳けなく考えっております。

私のつもりでは、あと 島の民謡、民謡のこと及び  
復帰運動史のようなものを書いた。一先ず稿を  
といたいと考えようでしたが、そのいずれも、もう少し  
準備をせよとします。甚だ勝手ですが、

一月号の(十四)で、いつたん 休ませたいなさい  
と存じます。

この頃、この刊島の島々、村々を広く見ます。

機会ができて、見て歩いたありますが、今まで

その中の一つの島の奄美大島の南も名瀬周辺地域の  
見聞に基いて書いてきました。「名瀬のよう」が、これら  
の島々のことを表現するためにはおのれ、一瞬のさまり  
ないところもありたいように思っています。今度は更に是れを水  
の島にのこして、しっかりと書くために、よく見たい、気持ちに  
あふれたいです。

いつも長いあつが、ありがとうございます。お返しした  
は右よろしくお願ひ申上ります。

十二月二十四日

名瀬在  
島尾敏雄

新日本文学編集委員御同様

追伸

尚、霜多様が各地御立寄りの時もお願ひ  
致しました。先般 御依頼申上った 徳之島電樓  
の田島辰徳氏 入会申込の件の、その後の御決意  
を知らせて下さいますよう。  
本人も大へん待ちの念で居ります。もし入会が否決  
されましても、どうかそのことお知らせ下さい。  
お待ちしております。

徳之島電樓 田島辰徳

名瀬市佐吉町三

島尾敏雄

島尾敏雄  
754